

白光色

びやくしきびやっこう 第22号

見て聞いて感じるコリア



「東九条マダン」

(12～16頁参照)

いずれも京都市南区の市立凌風小中学校で
2019年11月3日、中山和弘・丁春燁撮影



会場を飾る装飾品を制作するメンバー



会場で展示された朝鮮半島の仮面(タル)



毎回、様々なテーマで演じられる朝鮮半島の伝統的な「マダン劇」



東九条マダンの目玉目目である和太鼓とサムルノリの共演



会場では多くの食べ物や物販の店も設けられる



フィナーレで和太鼓とチャンゴを演奏する参加者

人権学習誌『白色白光』ひやくしきひやくこう 第22号 見て聞いて感じるコリア

《座談会》どう違う日本と韓国

.....

友永雄吾 岡崎日和
中尾彩乃 鈴木萌々日
田中利於 金 鎔哲
大山 璃奈 2

東九条マダン―「誰もが認められる空間」はどう生まれたのか

..... 藤田 悟 12

「ヘイトスピーチ」って？

.....

金 尚均 17

アルバイトと就活をはじめる前に

.....

妻木進吾 21

性のあり方は人それぞれ

.....

吉本圭佑 26

人権啓発リーフレット「共是凡夫」

.....

32

人権に関する基本方針・性のあり方の多様性に関する基本指針

.....

40

座談会

友永 雄吾（ともなが・ゆうご）
国際学部国際文化学科准教授

岡崎 日和（おかざき・ひより）
国際学部国際文化学科2年

中尾 彩乃（なかお・あやの）
国際学部国際文化学科2年

どう違う日本と韓国

——多文化共生を目指して

鈴木萌々日（すずき・ももか）
国際学部国際文化学科2年

田中 利於（たなか・りお）
国際学部国際文化学科2年

金 鎔哲（キム・ヨン Chol）
国際学部国際文化学科2年

大山 璃奈（おおやま・りな）
国際学部国際文化学科2年



左から時計まわりで鈴木さん・中尾さん・岡崎さん・友永准教授・田中さん・金さん・大山さん

なぜ韓国、日本に興味を？

友永 私は国際学部国際文化学科で文化人類学を専門に教える友永雄吾です。フィールドはオーストラリアでして、なかでも南東部オーストラリア先住民の研究をしています。また、多文化共生についてもオーストラリアと日本の状況に注目して研究をしています。ですので、本日のテーマである「日韓



友永雄吾准教授

関係」については、多文化共生という点で、興味をもっています。

この座談会では、みなさんに自分の率直な考えをお話したいだきたいと思っています。さっそくですが、金さん以外の5人のかたは、去年の夏、国際文化学科の必修科目である国際文化実践プログラムで、韓国に行きました。みなさんはどうして韓国に興味をもたれたのですか。まずは岡崎さんからお願いします。

岡崎 はじめて興味をもったのは、中学2年生のときです。友達にKポップのことを教えてもらい、それから韓国に興味をもつようになりました。

友永 Kポップといっても広いので、具体的にいうと？

岡崎 防弾少年団が好きですね。

中尾 私がいちばん最初に興味をもったのは音楽。でも音楽だけじゃなくて、そこから文化などにも興味をもつようになりました。

鈴木 私の場合は母が韓国ドラマが好

きで、よくテレビで見ていたことと、小学校5年生のときにKARAや少女時代の曲をよく聴いていました。第二次韓流ブームと言われていますが、それから韓国に興味をもちはじめ、韓国の音楽番組が放送されているのを見て、歌詞を理解できるようになりたいたと、韓国語や文化を勉強するようになったのがきっかけです。

大山 私も小学生のときに、祖母が「冬のソナタ」などのドラマを見ていて、そのときはあまり興味がなかったのですが、東方神起とかのアイドルグループの活動を目のあたりにして、興味をもつようになりました。

田中 私も母が韓国ドラマを見ていて、いつの間にか私も見るようになり、さらに中学2年生くらいからKポップを見て好きになって。

友永 なるほどね。みなさん音楽ですか。

金さんは日本にいられて2年目だそうで、日本の文化や政治に興味があり

金 鎔哲さん



龍谷大学で勉強されています。

金さんは僕と同僚のカルロス先生とで担当した国際文化実践プログラムのひとつ「マイノリティから見た日本社会『内なる国際化』を学ぶ」に参加されました。金さんはなぜ日本に興味をもつようになったのか教えてください。

金 かつて韓国ではテレビ番組で日本の文化を知ることができない状態でした。しかし、文化政策が変わってきてどんどん日本の情報が入るようになって

ったのがきっかけです。それから漫画とか映画、小説など、日本の文化に興味をもつようになり、高校生のとき外国語として中国語と日本語があり、ここで日本語を選んで勉強しました。日本語は韓国語と少し似ているのでおもしろいし、英語より簡単かなと思い選択しました。その後、日本の大学に行こうと決めました。

友永 はい、ありがとうございます。ところでみなさんに国際文化実践プログラムについてお聞きしたいことがあります。このプログラムは2016年から2回生以上の学生に必修科目として開始したものです。国内外で教員が企画したプログラムや長期・短期の語学留学、さらには学生が自分たちで企画する自己応募型プログラムなどがあります。そこで共通しているのは、学生が主体的に自らテーマを決定し、事前の調査をして現地に赴き、そこで得た調査結果を帰ってきて発表して報告書にまとめるというプロセスです。そ

の中で金さん以外は、いずれも韓国ソウルの東国大学に行かれましたね。

岡崎 私たちの場合は2週間の短期プログラムで自己応募型でした。

友永 そうですか。ではみなさん、それぞれにどういうことを調査されたのか、紹介してもらえますか。金さんは、日本での実践プログラムについて、お話ししてください。

田中 私は韓国のカフェについての調査です。いろんなカフェに行ってみて、そのカフェで現地の人がどういうことをされているかを調べました。

友永 韓国のかたはよくカフェに行かれるのですか。

金 日本に比べたら多いですね。たとえばデートのとき映画を観たあとカフェへ行くことが多い。かき氷の種類が30種類とか(笑)。

友永 そんなにあるの。

ところで金さんが日本で調査をして、どういうことがわかったのですか。

金 私の場合、大阪市生野区のコリ

アタウンに行きました。ここで在日コリアンに対する差別の歴史や、なぜコリアタウンに住みはじめたのかとか。私は日本の文化が好きで日本にきたのですが、在日コリアンの人たちが差別をうけているとは、まったく知りませんでした。今でもまだ差別が残っていると聞いて、ショックでした。「在日」に対しての日本人のイメージが、あまりよくない。残念ですね。



鈴木萌々曰さん



大阪のコリアタウン

金 韓国の大衆文化の日本における影響とか、日韓関係が悪いのに、なぜたくさん日本人がコリアタウンを訪れるのかに興味をもち、調べました。友永 なるほど。ちなみに金さんが参加されたのは、日本のマイノリティの当事者と、そうしたかたがたが住むコミュニティをフィールドワークすることから学ぶプログラムです。取り上げたマイノリティは三つです。まずは被

差別部落、そして在日コリアン。最後に日本の先住民族であるアイヌ民族です。その中で金さんは、コリアタウンでフィールドワークをされました。そのあたりは、あとで詳しく話してください。

で、大山さんは？

大山 私は韓国の観光地の景福宮について調べました。景福宮は李氏朝鮮王朝の宮殿です。何が目的でみなさんがこの観光地を訪れているのかとか、SNSが、その観光地を広めるのにどのような役割を果たしているのかについて調べました。

友永 観光地の歴史や建造物に注目したいいわゆる歴史観光がテーマですね。

鈴木 私は韓国の学歴社会について調査しました。今の学生生活の満足度とか、将来に対する不安がどのようなのか、のなか、日本と韓国でどう違うのか。今の韓国の学歴社会が学生にどのような影響を及ぼしているのか、両国の特徴を理解することで、日本の学生に足

岡崎日和さん



りないことなどを学びました。

中尾 私は日本語と韓国語の比較です。韓国の若者言葉について、日本の若者言葉と似ているところとか、違うところとかを調べました。また、韓国で使われている日本語の単語とかも。

友永 韓国で使われている日本語の単語とは？

金 日本の植民地時代の影響がまだ残っているのです。おばあさん、おじいさんたちが、まだ日本語を憶えてい

るからでしょう。

友永 中尾さんの報告を見ると、それだけじゃないですね。それはまたあとで話してください。

岡崎 私は韓国の化粧品について調べました。日本のコリアタウンでも韓国の化粧品はすごい人気で、韓国の化粧品企業の日本進出の方法とか、どのような仕組みで売り上げを伸ばそうとしているのか、などを調べました。

何をどう調査したのか

友永 じゃあ、これからそれぞれ調査した方法とその結果について報告していただきます。岡崎さんは、どのようなことを明らかにしましたか。

岡崎 まず向こうの大学で講義があつて、韓流文化の世界戦略とKビューティーの現状及びマーケティングの授業を受けました。このふたつの講義によって、韓国の化粧品がまず韓国内で発生したKポップの世界進出があつたこ

とよることがわかりました。モデルとかアイドルの人を化粧品のPRに取り入れて、積極的にマーケティングを行ったことによります。

韓国化粧品の日本と違う特長は、ひとつのブランドのイメージがはっきりしていることです。たとえば自然素材をポリシーにした化粧品のブランドがあったり、可愛らしさがコンセプトで、ターゲットを10代、20代に絞っていたり。たしかにそのブランドを持っている人は、若者に多いし、デザインも特徴的で可愛いのが中心です。日本の化粧品はどちらかと言うと、デザインより品質とか安全性にこだわっている気がするのですが、そこが違うなと思いました。

友永 現地で講義を受けたとおっしゃいましたが、その講義は日本語でしたか？

岡崎 先生が韓国語で話され、日本語に翻訳してくださいました。

友永 なるほど。通訳がついていた。

では中尾さん、どうでした。

中尾 日本の若者言葉は単語と単語の頭文字をつなぎ合わせて作っているものが多いのですが、韓国の学生も同じように頭文字をつないだり、英語と組み合わせて作ったりしている。作り方は日本の若者言葉と似ていることがわかりました。また韓国で使われている日本語は、単語のみがいちばん多くて、「バケツ」とか「ツンデレ」とか。

金 植民地時代におばあさんたちが



中尾彩乃さん

使っていたからでしょう。「ツメキリ」とかも。

友永 中尾さんはどうやって韓国の若者言葉を調べたのですか？

中尾 アンケート用紙を作って、そこに書いてもらいました。

友永 アンケート調査でしたか。では鈴木さんは？

鈴木 私も学歴社会や就職難について、アンケート調査をしました。ソウル出身の学生だけじゃなくて、地方からたくさん来られていました。韓国には10大財閥がありますね。その企業に入りたいということでした。また韓国の企業もソウルにある大学の学生を求めています。その中でも……。

金 ソウル大学と高麗大学、延世大学。日本で言えば早稲田、慶応という感覚です。

鈴木 そうですね。企業はソウルにある有名大学、その中でも高成績の学生がほしいので、学生は高校1年生のときから猛勉強をしなければならず、高

校生活はしんどかったという人が多かったです。

それで、韓国の学生自身も学歴社会だということを実感していて、就職に対する不安はとても大きいものでした。学歴社会であることが結婚や出産というものに負荷を与えているので、日本より深刻な少子高齢化が到来するのじゃないかと言われています。

韓国では最終的にいい企業に入るというのがゴールであって、大学はあくまでそのゴールに向けての通過点だという認識です。日本の場合は、大学に入ることがゴールですね。で、大学に入ったら単位をもらえたらいいわ(笑)という学生が多いのと比べて、韓国の学生は大学に入っている成績を残すことができるようにとがんばります。ただ就職活動は4年生の半ば頃からのなので、大変です。

友永 そうですね。だから最後まで韓国の学生は気がぬけない。次に大山さんは？

大山璃奈さん



大山 私は景福宮について調べたのですが、景福宮の見学ツアーは韓国語、日本語、英語、中国語で、1日3回行われていました。私は日本語によるツアーに参加したのですが、王様や王妃が暮らしていた所を中心に、ガイドさんの説明を受けました。

そのあと景福宮を訪れている観光客にインタビューをして、訪れた目的と印象的に感じたことを聞きました。その中で景福宮を知った理由は韓国のド

ラマや時代劇という意見が多く、韓国の伝統的な衣装を着てみたかったという人や、若い人たちはSNSで、韓服を着て写真を撮りたいという意見が大半でした。

また、朝鮮王朝時代の衣装を保管・展示している博物館があつて、景福宮の建物だけでなく、当時の文化や生活様式を知ることができて、より身近に魅力的に感じることができました。

カフェ文化が根付く韓国

友永 そうでしたか。じゃ金さん。

金 私はコリアタウンで、アンケートをとりました。女性20人、男性19人の40人くらいです。年齢は20〜30代で、意外なことにコリアタウンは好きではないというのが4割ぐらいあつて、驚きました。日韓関係についてあまり気にされていないのかなと思っていましたが、アンケートの結果、3、4割の人が気にしていると、これもびっくり

しました。

また、Kポップについて、それ自体は特別な文化ではなく、昔からあったアメリカのポップスを、韓国語に変えただけだという意見もありました。

もうひとつは、日本のテレビ番組などで韓国の悪口を言うことがあります。個人的に思うのは、日本人って個人的なことで、国と国のことをわけて考えている。政治的なことは気にはなるけど、コリアタウンは好きだから来てみたという人が、けっこう多いのです。

友永 政治的な問題を気にしている人が多いというアンケート結果ですが、それって世代は？

金 40〜50代の人にアンケートをとりましたのですが、ほとんどいらっしやなくて、20〜30代の若者にということになりました。で、日本の若者は選挙にも行かなくて、政治的なことに興味がないというイメージをもっていました。そうではなく個人は個人、

国は国と……。

友永 田中さんは、どうでしたか。

田中 韓国がなぜカフェ大国になったのかを、まず調べました。韓国にコーヒーが伝わったのは朝鮮王朝時代で、当時は高価なもので王様や貴族だけのものでした。それが日本の昭和の時代に「タバン」と呼ばれる喫茶店が韓国にできるようになり、広がっていきます。「タバン」は韓国人にコーヒーを伝える大きな役割を果たしますが、今、



田中利於さん

「タバン」はほとんどなく、1990年代に入ってからスターバックスが韓国に出店することで、韓国独自のカフェ文化が発展していきました。

さらにカフェが、いろんな社会的役割を担っていることもわかりました。韓国の人は日本に比べて、カフェに行く頻度が高く、カフェで勉強している人が多いです。そこから韓国の学歴社会の一面を垣間見ることができました。ふたつ目に、日本だと少人数でカフェに行くことが多いのですが、韓国だと大ぜいで友達同士が会話する場所になっているということです。と共に、伝統的なお茶を提供しているカフェも多く、伝統茶の文化を伝えています。

想像以上に良好な関係が

友永 みなさんの報告を、非常に興味深く聞かせていただきました。次に、国際文化実践プログラムを通して、ファッションやKポップなどの大衆文化

でもいいですから、今の日韓関係についてみなさんがもっている考えを教えてください。たとえばコスメについてもっと知りたいということでもいいし、韓国での経験がどう役立っているかということでもいいのですが。

鈴木 Kポップを好きな人がこれまでに以上が増えていく気がします。私もその一人ですが。

友永 言葉がわかるとさらにね。

岡崎 たしかにそうです。言っていることがわかると、まったく違ってくる。それが勉強するいちばんのきっかけですね。SNSとかで、日本と韓国では時差がないので、向こうのアイドルが誕生日だしたら、同じ時間にお祝いできる（笑）。

中尾 さきほども言いましたが、Kポップだけじゃなくて、ファッションや食べ物なんかも日本にどんどん進出しているの、韓国の文化を受け入れる人が増えていると思います。

鈴木 私たちが実践プログラムで行っ

たとき、韓国では不買運動が最も盛り上がっていました。地下鉄にも「NO JAPAN」というステッカーが貼られていたり。実践プログラムのあとも何度か韓国に行ったのですが、ユニクロの店舗に好きだけ買いに行けないという人がおられました。で、オンラインでこっそり買っている。

ただ、今は売り上げも不買運動前に戻ったようで、日本や日本製品が好きな韓国の人は、けっこう多いと思いますし、日本文化が好きで、日本に来る若者も多いと思います。でも韓国では、反日教育が根付いている。

金 教科書にのっていない植民地時代の歴史をくわしく調べたのですが、事実を知ったら、誰でも一時的に反日になりますね。ドイツなどは第2次大戦時の歴史を認めています。日本は認めていると言いつつも、肝心な所は認めていないような気がします。

友永 歴史を忘却すると言われますが、たしかにドイツではそうしたことが起

こらないように、自国の歴史と向き合っ
て「記憶の文化」がうまれてきてい
るようです。一方で、日本は1951
年にサンフランシスコ講和条約で、国
際社会に復帰し、65年には日韓基本条
約と請求権協定を両国で結び、国交が
正常化したとされます。これにより、
植民地の問題や戦争の問題は国家間の
問題で、過去のこととされ、現在の私
たち一人一人の問題として捉えられな
い傾向があるように思われます。

金 びっくりしたのは、韓国での8
月15日の意味と、日本の8月15日の意
味の違いですね。

友永 朝鮮半島では、日本の植民地か
らの「光復」や「解放」となり、日本
側では敗戦日となりました。ちなみに
去年は三・一運動（大日本帝国からの
独立運動）の百周年でした。どうです
か大山さん。これまでの経験を踏まえ
ての日韓関係は。

大山 プログラムに参加したのは、ち
ょうど8月でした。不買運動が盛んで、

日韓の関係が悪くなっていて、ちょっ
と不安な面があったのですが、でも向
こうに行ったら、違いました。韓国の
学生さんとも交流できましたし、日本
語を高校のときから勉強されていて、
日本語と韓国語をまじえてコミュニケ
ーションがとれたので、すごく楽しい
時間でした。私が韓国語を学んでいる
のと同じように、韓国でも日本語を学
んでいる人が多いと知って、うれしく
思いました。

もっと語り合える場を

金 韓国人は、すぐ熱くなって冷め
やすいというイメージがあるでしょ。

私は大阪のドラッグストアでアルバイ
トをしていて、最初に店に入ったとき
は韓国からのお客さんが少なかったの
ですが、最近はどんどん増えてしまし
た。そうするとたまに、日本のお客さ
んに「お前、韓国人だろ?」と言われ、
「はい、韓国人ですよ」と答えたら「あ

「んたところの大統領、どうにかしてくれ」(笑)と、そういうことを言われたことがありました。

私も国の政府や大統領が正しいとは思っていませんが、歴史をよく知っている韓国人と、あまり知らない日本人とは、誤解があると思います。共同作業で歴史教科書を作ること、日韓がもっと仲良くできるようになればと思っています。

友永 文化人類学の分野では、そういうことを実践している先生がおられます。文化人類学の教科書を、韓国の研究者と一緒に作るのです。また、日韓の学生交流は、たとえば高校の修学旅行や大学生同士での交流など様々な展開されています。

金 韓国の諺で、「自分の国の歴史を知らない、その国の未来はない」というものがあります。知らなければ、歴史をくり返すからです。

田中 景福宮の前ですごく大きなデモがあり、韓国の人は私達と比べて国際

情勢に関してすごく考えていると思いました。パク・クネ(朴槿恵)大統領のとき、国民がすごく大きなデモをして、その影響で大統領が辞任したこともありましたね。

友永 自分たちの問題だという意識が、日本人は低い傾向がある、若者も我々の年代もね。これには教育やメディアの与える影響が考えられますね。

金 最近、おもしろいなと思ったことがあります。ユーチューバーの中で国会議員が個人で運営しているチャンネルがあり、そこから動画で自分の意見を言っている。この動画は私だけではなく、誰にでも見ることができるので、こうしたことから日本の若者もどんな政治に興味を持つようになるのかなと思います。

友永 日本と韓国の関係ですが、日本は歴史的に見て、朝鮮半島から受け継いだ文化がたくさんあります。仏教もそうです。そういうことを考えると、とっかかりはファッション、フード、

フェスティバルなど、いわゆる3FといわれるテーマからでもOKです。異文化を学ぶさいには、ごく日常の身近なテーマからとらえていき、そうした学びを通して歴史認識といったテーマも肩ひじ張らずに話せるというのが理想だと思います。本日の座談会で様々な話が出ました。このように若者が語り合えるフォーラムとしての「対話」の場が増えていくことを期待したい。同時にもっと異文化での体験を「実践」してほしい。グローバル化の進展で人々との交流が容易になる一方、世界規模での災害や地域的な紛争などで交流が遮断されることもあります。そうした時期であるからこそ、「対話」と「実践」による「他者」との交流を通じ、大衆文化や歴史認識といった様々な問題に対して批判的な想像力を養うことが重要であると考えます。

東九条マダン——「だれもが認められる空間」はどう生まれたのか

藤田 悟

(ふじた・さとる)

社会学部教授

JR京都駅の南東に広がる京都市南区東九条は、京都で在日コリアンが最も多く住む地域だ。このまちで毎年秋、「東九条マダン」(マダンは朝鮮語で「広場」の意味)と呼ばれる祭りが開かれている。民族や国籍などの違い、障がいの有無などにかかわらず人々が自由に集まり、交流し、楽しめる場として27回を数えた。コンセプトは「だれもがそこで認められる解放された空間づくり」だ。

昨年11月3日、地域にある凌風小学校の校庭で第27回東九条マダンは開かれた。会場には焼き肉やチヂミ、韓国餅、焼きそば、綿菓子、動物パンなど30近い出店が並び、朝鮮半島に伝わるゲームや韓紙の工作、民族衣装の試

着、楽器体験、車いす体験など様々なコーナーもあって、子どもたちの歓声が広がった。(表紙裏の写真参照)

ステージでは朝鮮半島に伝わる伝統舞踊や音楽など出し物が次々と進んでいく。ト리는、朝鮮伝統の4つの打楽器で奏でるサムルノリと和太鼓が共演する東九条マダン名物「ワダサム」だ。迫力ある太鼓や鉦の音が響くと、見ている人たちも体が自然に動きだし、渦になって踊る人の輪ができた。この日の参加者は約4000人。

東九条マダンは在日コリアンの歴史を刻み込んでいる。

日本が朝鮮半島を植民地化していた1920年代から、建設工事や工場労働などに従事するため、朝鮮半島から

たくさんの人々が日本に来了。京都では国鉄(当時)の東海道線や東山トンネル、鴨川護岸などの土木工事で多くの朝鮮人が働いていた。戦後、朝鮮半島に戻った人たちもいたが、生活の基盤が日本にあつたり、朝鮮戦争などの混乱が続いたりするなど、さまざまな事情で日本に残る人も多かった。戦後間もない頃の東九条の人口は3万人余り、そのうち朝鮮人は約1万人といわれる。

戦後の日本社会では在日コリアンへの根強い偏見があり、多くの人たちは就職や結婚、居住などでさまざまな差別に苦しんできた。差別から逃れるために本来の朝鮮名を使わずに日本風の「通称名」を使う人もいた。こうした中、在日コリアンの間で民族のアイデンティティを取り戻したいという動きが強まっていった。

1980年代、日本有数のコリアンタウンである大阪・生野で開かれた民族文化祭に刺激を受け、京都でも民族文化祭を開こうという声が上がった。

そこで注目されたのがマダン劇だった。

マダン劇は舞台演劇とは異なり、円形のマダン（広場）を観客が囲む中で行われる韓国伝統の演劇形式で、主に庶民の生活と社会問題を表現しながら風刺やユーモアを込めて演じられる。

1970～80年代の韓国の民主化運動の中で権力に対する風刺劇として再生した。韓国伝統文化を研究していた梁民基（ヤン・ミンギ）さん（2013年没）が、民衆文化を創造するエネルギーで社会を変えていく「民衆文化運動」を提唱し、マダン劇を日本に紹介した。

京都でも自分たちのマダン劇を公演しようとして、1986年、在日コリアンを中心に、地域で活動する日本人らも加わって民族文化グループ「ハンマダン」（一つの広場、という意味）が生まれ、東九条を拠点にマダン劇や民族音楽を演じるようになった。

劇の中で社会問題を取り上げるうち、「在日コリアンと日本人が一緒になれる祭り、地域のだれもが参加できる祭りを作りたい」という声が盛り上

がり、1992年に「東九条マダン」の準備会が開かれた。当時は政治色の強い団体も多かったため、団体ではなく一人ひとりの個人として参加するという形を取り、地元小学校での開催を計画した。

東九条は在日コリアンが多い地域とはいえ、多数は日本人で、在日コリアン中心の活動はなかなか理解されず、反発も招いた。地元自治会が小学校使用に反対したり、民族音楽の練習をしている子どもたちに石が投げつけられたりすることもあったという。

92年に計画された祭りは結局実現せず、翌年、改めて実行委員会を結成。市教委や学校、自治会などと話し合いを重ねてマダンの趣旨を説明した。中心メンバーの一人、朴実（パク・シル）さん（76）は当時を振り返り、「朝鮮人嫌いの人も多くて、あれは朝鮮人の祭りだからだめだ、と反対する声も強かった。学校の理解もなかなか得られず、会場探しも大変だった」と語る。苦労が実り、1993年10月9日、

記念すべき第1回東九条マダンⅡ京都市南区の市立陶化中（当時）で1993年10月9日、中山和弘撮影



地元の陶化中学校（当時）を会場に第1回東九条マダンが実現した。プンムル（農楽）のパレード隊入場につき、地元保育園による踊りやマダン劇、のど自慢などが行われた。陶化中のブラ

スバンドは代表的な朝鮮民謡「アリラン」を演奏した。朴さんは「当日は雲一つない好天。あの日の感動は忘れられません」と話す。参加者約2000人。アンケートにはこんな記述があった。

「私は九条近辺に子どもの頃から住んでおりますが、東九条マダンのような大きなお祭りは初めてでした」(60代女性)

「朝鮮文化・民族とふれあう場に参加して、生活の中で創られた文化はとても親しみやすく自然に体が動いた」(30代女性)

他地域の同胞団体からは、植民地時代に民族の文化を奪った日本人と共演することに批判もあった。しかし、東九条マダンでは試行錯誤しながら歩み続けた。第4回(1996年)には、それまで別々に演奏していた和太鼓とサムルノリのセッション「ワダサム」が実現。2000年には韓国の金大中大統領が北朝鮮を訪問して南北融和が進み、対立していた同胞団体も参加する

ようになった。

朴さんは第5回から16回まで実行委員長を務めた。「最初は意識しないと出来なかった日本人と在日の交流が10年目くらいから自然になった。子どももお年寄りも障がい者もだれもが参加でき、一人ひとりが主体になれる祭りだから続けてこられたのだと思う」と話す。

4年前から東九条マダンの実行委員長を務めるのは梁説(ヤン・ソル)さん(49)だ。父は、日本にマダン劇を伝えた梁民基さん。母は日本人。説さんは子どもの頃から二つの祖国、二つの社会、二つの文化の間で悩み苦しんできたという。

小学校は父の影響で朝鮮学校に通い、「ものすごい規律の中で生きていた」。卒業後、今度は母方の影響で日本の小学校6年に編入した。名前を聞かれた時、とっさに母の姓を名乗った。中学校では日本風の読み方である「りよう・せつ」という名前で通した。

19歳の時、希望すれば日本国籍を選

択できる機会があったがそれを選ぶことはしなかった。「息苦しかったといえ、朝鮮学校で受けた6年間の教育が自分の中にあつた。当時は日本人になることは裏切り者になるという考えがあつた」という。在日の立場で生きることを選び、韓国の民主化を支援する在日韓国人青年の活動に関わつた。

そんな時に出会つたのがマダンだった。南北対立が激しく、さまざまな団体が主張をぶつけ合う時代だったが、「組織の主義主張に関係なく、自分たちのやりたいことをしている人たちの姿を見て、ここに関わりたいと思つた」。

説さんはマダン劇のシナリオを書くようになり、のめり込んでいった。「在日のエネルギーはもちろん大きかったが、単なる民族の祭りではない地域の祭りをつくらうと、在日でないたくさんの人たちも呼応して参加してきた。それを開かれた広場づくりにするのが思いのほか楽しくて、だれもがそこで認められるような空間づくりにつな

がった」と説さんは話す。「マダンが大好き、マダンで自分が自分でいられた。そういう経験がある人が、心地よさや解放感を求めている。そこにマダンの魅力がある」

説さんは一昨年の東九条マダン報告集の巻頭言でこう述べている。

「私の肉体はいくつもの分断や断絶の境界線で区切られ、引き裂かれ、その痛みに身もだえすることがあります。私が育った時代、在日二世の父と日本人の母の世界には、幼い私の肌身にも感じられる境界がありました。故郷はチエジュ島のはずなのに、北に移住し、生涯出会うこともできずに日本と半島との境界、北と南の境界を超えることができなかった父の家族。いろんなものが敵か味方か、勝つか負けるかという構図で捉えようとしていた時代の思考の癖が顔を出し、いまだに乗り越えられていません。マダンはその私の「今」を過大にも過小にも評価せず、ただ、今を存分に生きろと教えてくれます。今を受け入れ、今を表出し、今

いる仲間とともにつくるひろば。変わらないものなど何もない、固定化させるのは私自身の心なんだと、マダンの多様さとゆるやかさが気づかせてくれます」

毎年、東九条マダンの開会時、民族衣装に身を包み、太鼓や鉦をたたく子どもたちのパレード隊が入場してくる。「本場にみんなが晴れ晴れとして、待ちに待ったマダンが始まる瞬間、なんとも言えない気持ちになる」と説さんは言う。

事務局を含み、会場の準備や運営を担うスタッフは300人近くいる。その7割以上は日本人だという。

事務局スタッフの一員、高橋慎一さん(41)「京都市」のマダンとの出会いは十数年前だ。初めてマダンを見て、みんなが本場に誇らしく楽器をたたいてる姿を見て「なぜか自分も誇らしく感じた」という。

ちょうどその頃、高橋さんはある50代の脳性麻痺の男性と出会った。365日、人の手を借りないと生きること

ができないその男性は、自分で介助ボランティアを集めて生活していた。横には介助者がいて、男性は楽しそうに音楽を聴き、晩ご飯を作ってもらっておいしそうに食べていた。それが実に自然に見えた。

高橋さんは10代後半の頃、重度の言語障害で1年ほど引きこもる時期があった。「自分の言葉を聞き取ってもらえなかった鬱屈をずっと抱えてきたが、障がい突破してきた人に会って、瞬間的に自分の悩みを卑小に感じ、解放された」と言う。

4年前。職場の同僚だった梁説さんから、マダン劇に出てみないかと誘われた。脚本を書いた説さんが高橋さんに用意した役が「引きこもりのラッパー」だった。

1日の仕事を終えた午後7時ごろから練習。「みんなドロドロに疲れて集まってきて、なんでこんなしんどいことをするんだろう。何があるんだろう」と思いながらも続け、公演では「自分が抱えてきた悩みも詰め込んで奇跡的

に表現できた」。マダン劇の世界に惹かれ、事務局にも加わった。

マダンには障がい者も自然に出入りし、それが当たり前の空間だ。「マダンには苦しい歴史や思いを背景にしなから蓄積されてきたものがある。だからこそ、抑圧や差別されてきたものもここでは解放される。多文化共生という言葉を使わなくても、地に足をつけて、ちゃんと目を見て話し、顔が見える関係がここにある」

小林ひろみさん(58) 〓長岡京市〓
は20年前、ぶらりと訪れたマダンで聞いた「ワダサム」に心の底から感動を覚えた。在日のメンバーがたたくチャング(鼓)と日本の和太鼓が一体になっていた。翌年からスタッフに加わり、美術班のメンバーとして、会場の飾り付けや体験コーナーなどを担当している。

班のスタッフは20人前後。子どもを連れた家族での参加者もいる。マダンの魅力は「在日の人たちが自分たちの文化を大切にしながら、それだけに閉

じていないで、いろんな立場の人たちと交流している。特に子どもは幸福感を大事にしていること」と言う。「子どもの時から自然に太鼓をたたき、いろんな人が一緒にいることがどんなに楽しいのか。そういう思いを子どもたちのところから持ち続けて育ってくれればいいと思う」

西川紗生さん(25) 〓宇治市〓は大学時代、周囲にきらびやかな学生が多く、「自分に自信が持てない。ありのままの自分でいられない」ことを意識していた。大学3年になって卒業論文のテーマを選ぶ際、関心のあった日韓現代史を題材にしたいと考え、指導教員のアドバイスで東九条マダンについて調べることにした。

梁民基さんがマダン劇を日本で実演するまでの道をたどる中で「在日コリアンの文化がいかに手探りで作られてきたものか。文化って本当に人間によって創造されるものなんだ、と気づかされた」。

マダンとの出会いは自分を根底から

変えるものだった。「初めての人にもとても居心地が良いウエルカムな雰囲気。ありのままの自分でいられる居場所を見つけた」。卒論の調査を超えてマダンの活動に参加するようになった。「マダンには、いろんな立場の人、いろんなバックグラウンドの人がいる。民族とか障がいのあるなしなどでひとくくりにするのではなく、一人ひとりが本当に人として関わり、オープンに意見をぶつけ合って関係性を築いている。こういう空間ができていることが本当にすごいと思います」

近年、多文化共生という言葉がよく使われるが、育った環境や文化や言葉が異なる人たちと共に生きていくことは、現実にはそう簡単なことではない。それでも、国籍や属性などでレッテルをはるのではなく、共に人として向き合い、それぞれの立場を尊重し合うことが豊かな関係づくりにつながるということを、東九条マダンの経験は教えている。

「ヘイトスピーチ」って？

金 尚均

(キム・サンギョン)

法学部教授

みなさん、ヘイトスピーチという言葉を書いたことがありますか。2013年には『現代用語の基礎知識』選言キヤン新語・流行語大賞の候補語50語にも選ばれています。ヘイトスピーチはそれほど素晴らしい言葉なのでしょうか。いいえ、とんでもないです。ヘイトスピーチとは、「○○人は気持ち悪い、ゴキブリだ」や、「○○人を日本から叩き出せ」など、在日韓国・朝鮮人の人たちや障がいを持つ人たちなどをターゲットにして、特定の属性を持つ人々を十把一絡げにして、自分たちとは異なる劣った存在であることを社会に知らせ、彼らに対する偏見や憎悪を呼び起こすために発せられる言葉のことです。「殺せ、殺せ、○

○人」などの言葉を町の大通りなどでデモと称として公然と大勢の参加者が一般の道歩く人々に訴えるのです。しかもこの活動の映像をインターネットを通じて閲覧できるようにするのです。インターネットの情報は、瞬時に（世界中の）多くの人々に送られ（速報性）、広まり（拡散性）、被害者のコンピュータの画面に映像・情報があるにもかかわらず削除したくても削除できず、放置されることにより被害が継続する（被害の継続性）という特徴があります。これにより一般の人々の心の中に浸透していき、特定集団に対する偏見を抱かせ差別することへの抵抗感をなくしていきます。日本社会は非常に同調圧力の強い社会です。「ほかの人もやっ

ているのだからあなたも」、「みんな同じでしょ」など、普段何気なく使われている言葉ですが、他の人たちと違うことをするのをよしとしない社会の風潮の典型と言えます。このような社会では、「みんな」と異なることをする・発言することは大変困難なことです。もしかすると自分がのけ者にされてしまうかもしれない。自分は別に○○人ではないから被害に会うわけでもなく、自分が何かしなくても責められることではないとして、同調圧力を甘受する。このような態度が社会的に連鎖すると、ますます差別的な風潮が社会に蔓延します。差別が社会で蔓延すると人々の意識から差別意識がなくなってしまう。つまり当たり前になってしまいます。私たちの社会では最終的に多数派・マジョリティの意思によって物事が決まっています。また疑問もなく自分たちマジョリティの認識が正しいとして受け入れてしまうと、数の力だけで物事が決まり、その社会は他者・マイノリティのことを顧みない、想像

力に欠けた社会に陥ってしまします。

自分たちの都合のいい事実と歴史だけをとり上げて見て、不都合なことは躊躇なく消し去っていくことにより現実を直視しないようになっていきます。あったことをなかったことにしようとするのです。ヘイトスピーチは、ターゲットとなった集団を社会を混乱させている元凶・敵と見なして、人々と社会をマイノリティ排除へと扇動していきます。ここで質問です。人権の享受主体はだれでしょうか？ それは市民です。これに対して敵は排除の客体であり、人権主体ではありません。こうして特定の人々を排除していくプロセスが始まるのです。この始まりこそがヘイトスピーチなのです。これは、人々の差別に対する心の敷居を下げさせ、差別することへと誘導し、特定の人々を排除しようとする大変危険な言葉なのです。

いま日本社会で起きているヘイトスピーチの問題について裁判例を通じてその意味と現状を示します。

◆京都朝鮮第一初級学校 襲撃事件から10年

京都朝鮮第一初級学校に対する在日特権を許さない市民の会（在特会）らによる襲撃事件（2009年12月4日）から10年が経過しました。果たして龍谷大学深草キャンパスに近い南区勧進橋にあった朝鮮学校で何が起こったのでしょうか。こどもたちがお昼ご飯を終え、歯磨き、つかの間の遊びまた次の時間の準備をしている最中、12時半ごろ、11人の男性が京都朝鮮第一初級学校の校門前に現れ、学校の授業を妨害し、物を壊して、次のように発言したのです。「日本人を拉致したc傘下、朝鮮学校、こんなもんは学校でない。」「北朝鮮のスパイ養成機関、朝鮮学校を日本から叩き出せ。」「門を開けてくれて、設置したもんを運び届けたら我々は帰るんだよ。そもそもこの学校の土地も不法占拠なんですよ。」「戦争中、男手がいなくて、女の人レイプして虐殺して奪ったのがこの土地。」

「ろくでなしの朝鮮学校を日本から叩き出せ。なめとつたらあかんぞ。叩き出せ。」戦後。焼け野原になった日本人につけ込んで、民族学校、民族教育闘争ですか。こういった形で、至る所で土地の収奪が行われている。「日本から出て行け。何が子どもじゃ、こんなもん、お前、スパイの子どもやないか。」「朝鮮ヤクザ。」「不法占拠したとこやないかこは。」「お前らがな、日本人ぶち殺してここの土地奪つたやないか。」「約束というものは人間同士がするものなんですよ。人間と朝鮮人では約束は成立しません。」などと怒号を繰り返したことが侮辱罪として起訴され、有罪となりました（最終平24年2月23日）。本件では、本罪だけでなく、威力業務妨害罪（刑234条）および器物損壊罪（刑262条）も認められました。その意味では粗暴犯であり典型的なヘイトクライムが行われたというべきなのですが、インターネット上での配信など、被告人らの公然の言動の卑劣さが社会の関心と呼ぶに

至り、ヘイトスピーチが社会問題化するに至ったわけです。しかし、―ヘイトスピーチ解消法が制定されたが―特定の属性を有する集団自体・不特定多数の人々に対するヘイトスピーチは実定法上禁止されていません。そのため刑事規制としては特定人に対する名誉毀損罪ないし侮辱罪に問うほかなかったのです。京都事件では、被告人らの言動が「事実の摘示」のない誹謗中傷として侮辱罪で立件されました。侮辱罪の場合、原告・検察は誹謗中傷する言動を立証すれば犯罪が成立します。これに対して名誉毀損罪では言動が公共の利害に関する事実であり公益目的で行われ、真実であることが証明された場合には処罰されません(刑202条の2)。本件当時、検察は、上記言動に関する被告らの反証に対して再反証することを避けた可能性があります。検察はマイノリティに属する被害者に与するような立証活動を可能な限り回避したのかもしれない。またはもっと端的にマイノリティに属する者

への誹謗中傷、特に本件では民族学校の面前でその中核である民族的アイデンティティを否定する言動が行われたことを重く見ず、低い評価をし、刑法典の中で一番軽い犯罪である侮辱罪にしか値しないと考えたのかもしれない。その後、本件に関する民事裁判で被告らの言動が人種差別撤廃条約の人種差別に該当するとの判決が下されました(最終平26年12月9日)。本決定が嚆矢となり、ヘイトスピーチに対する法制度の整備の議論が高まるに至ったのです。

◆在日コリアン中学生への侮辱事件

被告人は自己ブログで、2018年1月、被害者の実名をさらし、地元の音楽イベントに参加したことに関する報道を引用して、「如何にもバカ丸出しで、面構えもろチョーセン人面」「見た目も中身もろ醜いチョーセン人!!」などと記載したことにつき侮辱罪で90000円の過料の略式命令が下

されました(川崎簡裁平30年12月20日)。本件でも検察は単なる誹謗中傷として侮辱罪で起訴した。本件にかんしても検察と裁判官の認識に欠けているのは、上記朝鮮学校事案も含めて、単に名誉が毀損されただけではなく、被告が自己の人間としての精神的中核の一つである民族的なアイデンティティを攻撃していることに関心が向けられておらず、そのため言動が差別目的で行われていることを看過しているところです。まさにヘイトスピーチが行われたのです。単に社会的評価だけではなく、差別することと同じ人間としての存在を否定している。つまり人間の尊厳が攻撃されていることを十全に認識できていない。それゆえ違法性の評価として特に重大なものとして扱われないことになってしまっているのです。

◆石垣島在日事業者への名誉毀損罪の適用

ネット掲示板で被害者の実名を挙げて「在日朝鮮人の詐欺師」「イヌやネ

コを食べている」などと書き込みをしたことにつき、名誉毀損罪の成立を認め、罰金10万円の略式命令を下しました（石垣簡裁平30年1月17日）。本件は、被害者の民族的属性を示して誹謗中傷しており、当該属性を有する個人に向けた誹謗中傷であり、特定個人に向けられたヘイトスピーチといえます。本件はヘイトスピーチとしての誹謗中傷について名誉毀損罪を認めた。従来は侮辱罪として立件されていたことからするとより重い犯罪との評価が檢察実務で芽生えてきたといえるでしょう。

◆元在特会メンバーによる 名誉毀損罪

2009年に京都朝鮮第一初級学校を襲撃した実行犯の一人である被告人が、再び同校前（同校はすでに移転）の公園で「ちょっと前までね、ここ、空き地になっているでしょ。ここにね、日本人を拉致した朝鮮学校があったんですね」「ここに何年か前まであった京都の朝鮮学校ってありますよね。こ

の朝鮮学校は日本人を拉致しておりま

す。」「これはもう警察庁にも認定されて、その朝鮮学校の校長です、日本人拉致した、国際指名手配されております。」「この勧進橋公園の横に、その拉致した実行犯のいる朝鮮学校がありました」と発言しことにつき名誉毀損罪を認め、50万円の罰金判決を下しました（京都地判令1年11月29日）。本件で京都地裁は名誉毀損罪を認めたものの、被告人が大阪の校長が拉致指名手配を受けていることを知って、京都朝鮮第一初級学校に社会一般の憎悪を向けるためにわざと京都朝鮮第一初級学校の校長が拉致犯であることを表現した差別扇動であるにもかかわらず、裁判所はこれを見抜けず、本校と何ら関係のない拉致問題に関する発言部分について公益目的を認めてしまいました。

被告人の発言は、朝鮮＝朝鮮総連＝朝鮮学校＝京都朝鮮学園・京都朝鮮第一初級学校と、「朝鮮」属性をもつて一把一からげにして、それぞれの固有性・独自性・独立性を否定して不特定多数

の人々に先入観と憎悪を呼び起こすために行われているのです。このことはまさに憲法第14条の趣旨（36頁参照）に照らして差別と言える。公益目的判断に関して京都地裁は極めて問題の残る判示をしてしまいました。

◆まとめ

総じて、民族的属性を用いた個人に対する誹謗中傷に対して名誉毀損罪による起訴が行われるようになったのはその社会的有害性が認識されつつあるという意味で一歩前進と言えるでしょう。けれどもいずれの判決においても財産刑の域を出ていないことからして、被害の本質を未だ十分に理解しているとは言えない。現状のままではヘイトスピーチをしても「お金さえ払えば済む」という誤った認識を生じさせかねません。特に略式命令にいたっては交通事犯と同等の違法性しかないという理解されかねません。日本の裁判実務では名誉などの精神的法益に対する可罰的評価は一般的に低いのですが、ヘイト

スピーチの本質は、社会的評価としての名誉の前提となる人間であることの保障・人間の尊厳に対する攻撃であり、その否定にあることに着目しなければならぬはずだ。未だ日本の裁判実務では、人間の中核であるアイデンティティにターゲットを絞って攻撃するといふ卑劣な差別行為の重大性とそれによ

る被害者と同じ属性を有する人々に対する社会からの排除を促進させる危険性を看過しています。現状の刑事裁判実務では、検察もまた裁判官も差別について捕捉できていないと言わざるをえません。

アルバイトと就活をはじめの前に

妻木進吾

(つまき・しんご)

経営学部准教授

クイズです

2019年11月、就職活動に苦勞していた学生が「ようやく内定をもらえました。東証一部上場の大手で営業です。大阪勤務です」とゼミの指導教員のところに報告にやってきました。20万4850円の初任給に学生は満足げだが、求人票の初任給の

注釈に「時間外労働40時間分を含む。うち10時間は深夜時間帯」と書いてあるのを目にした教員の顔は曇った。

【問題】この学生の大学卒業1年目の時給を計算すると何円になりますか？ 週5日勤務で1ヶ月4週として計算しなさい。

よく分からない、計算したけど自信がないという方はぜひ以下をお読み下さい。「簡単だ」という方も、もしかしたら計算違いがあるかもしれませんので、できればどうぞ。答えは最後にあります。

大学生活と切り離せないバイト

大学生になってアルバイトをはじめよう、より本格化させようと考えている人も多いと思います。2018年末から翌年1月にかけて龍谷大学の学生を対象におこなわれた調査（有効回答者1087人）によると、大学入学後のバイト経験率は、1回生91%、2回生96%、3回生99%、4回生以上97%となっており、バイトとして働いた平均期間は在学期間の7割程度を占めます。多くの龍谷大学生の生活はバイトと共にあるようです。

同調査によると、龍大生は週平均3.1日、1日平均5.6時間、週平均18時間のバイトをして、平均5.6万円の月収を得ています（これは実態であ

って、この程度のバイトが望ましいといった基準ではありません。バイトは、金銭面はもちろんのこと、さまざまな経験や人間関係の拡がりなど、学生生活をより充実させる可能性ももっています。一方で、充実した学生生活を阻害する危険性もあるようです。

バイトが忙しくて授業に出られず、結果、単位を落としまくる学生もそれほど珍しいわけではありません。回答者の5〜6割がバイトの忙しさや疲労などによって、勉強時間がなかったり、授業中に居眠りをしたり、授業に遅刻・早退・欠席した経験があり、「学業に支障が出た」と認識している学生は半数近くに達します。1日7時間以上、1日8時間超働く学生もそれぞれ2割、1割弱、週5日以上働く学生も1割程度いますが、正社員並みの労働日数・勤務時間のバイトと学業の両立は容易ではないでしょう。長時間働く学生ほど、「学業に支障が出た」割合は高まっています。

「責任感」の強い学生がバイトで単位を落とす

充実した学生生活を送るためにバイトをしているのに、バイトが忙しくて単位を取得できず、場合によっては留年してしまうとなったら本末転倒のようには思えますが、なぜこうした状況が生じるのでしょうか。お金を稼がなければ、授業料を払えない、留学できないなどの理由で長時間のバイトをせざるをえない人もいます。楽しくて、ついつい長時間働いてしまう人もいます。ただ、それだけではなさそうです。

たとえば次のようなケースです。

大学入学前の春休みにバイトを始めました。春休み期間は週5日入ってと頼まれ働いていましたが、入学後もそのままで、さすがに勉強もおろそかになり、せめて週4日にして欲しいとお願いしましたが、「人が足りていない。休みが欲しいんやったら人連れてきて！」

と流されました。人手不足で店長が困っていることも知っており、諦めて週5日働き続けました。

半年後、働きぶりが評価されて「バイトリーダー」「時間帯責任者」になりました。店長不在時に開店・閉店準備やレジ締めだけでなく、普段からバイト全体のシフト管理や発注もまかされました。時給は20円上がったのですが、やりがいも感じつつ頑張りました。出勤日は週5日固定の上、他のバイトが病気などの際は、店を閉めるわけにはいかないと、授業を休んで働くこともありました。アルバイト全体のシフト作成、企画書作成などの持ち帰り仕事もあって、1回生後期のレポートや定期試験はボロボロでした。

このままでは留年……と危機感を覚え、店長にリーダーを辞めたい、シフトを減らしてほしいと頼みましたが、「学生気分では困る。責任感を持って」と叱責されました。辛くなりバイトを辞めたいと告げると、「この店に愛がないのか。店の仲間を見捨ててるのか？」

「替わりの人間を用意せずに辞めたら損害賠償請求するから」と言われました。現在も私はこのバイトを辞められずに続けています。

これは龍大學生に聞いた実際のバイト経験をいくつか組み合わせたものです。学生バイトの中核労働力化、つまり学生バイトなしには営業が成り立たないような飲食店などが増える中で、気がつくとき長時間バイトから逃れられない状況に陥ってしまう学生は少なくないようです。「やりがい」「責任」「仲間」などの言葉で、自分の学生生活を犠牲にしてうまく使われてしまうことのないようにしたいですね。ちなみに、替わりを用意せずにバイトは辞めていいし、損害賠償の心配もありません。もし、上記の例のような状況に直面したら、自分だけで考えずに、周りの人に相談してほしいと思います。龍大の教職員も相談相手の候補に入れておい

9 割近くが「問題のある働かされ方」を経験

学業とバイトの両立のために押さえたいポイントを、調査結果からもう少しみておきます。

まず、7人に1人は、タイムカードを切つてからの仕事などタダ働きを経験しています。5人に1人は、1日に8時間を超えて働いても時間外労働の割増賃金が支払われず、1割弱は深夜労働（夜10時～朝5時）に従事しても深夜割増賃金を支払われなかった経験があります。深夜や時間外の労働には、25%増の賃金を支払わなければならないと労働基準法で定められています。

全体では5人に1人がこうした賃金の不払いを経験しています。また、8人に1人は定められた休憩を取れず、3人に1人は雇入れの際の労働条件を記載した書面を交付されていません。「退職を申し出て辞めさせてもらえなかった」「物損やレジミスなどを弁償させられた」「会社の都合で一方的

に解雇された」などの経験も見られました。回答者の9割近くがこうした「問題のある働かされ方」のいずれか、あるいはその複数を経験していました。

実態はおそらくより深刻だと思われます。たとえば、「定められた休憩を取れなかった」という回答は8人に1人でしたが、実際にはこれを大きく上回りそうです。コンビニエンスストアでバイトしている学生は、「自分のバイト先は勤務時間が6時間を超える場合は、45分の休憩がちゃんとあります」と語ります。彼は調査に「休憩を取れる」と回答したでしょう。ただ、その「休憩」中も、「コンビニの事務室にいないければならず、レジが混雑すればすぐに駆けつけて接客しなければなら

時間の「休憩」を与えられた後、8時間を超えてぶっ続けて働かされたと言います。また、お店が混雑して8時間を超えてぶっ続けて働き、ヘトヘトで帰ろうとすると、「休憩してから帰って」と1時間事務所で「休憩」を無理矢理取られたという話もありました。これも、「労働時間の途中で与える」という労働基準法の定める休憩の原則に反しています。「休憩が取れる」という回答には、こうした休憩にならない休憩がかなり含まれていると考えられるのです。

学生バイトと「労働者の権利」

いずれにせよ、回答者の9割近くが「問題のある働かされ方」を経験したと回答しています。こうした「問題のある働かされ方」を避けるためには、まずは自分にどのような権利があるのかを知ることが重要でしょう。「時間外労働には割増賃金」というきをまりを知らなければ、その不払いが問題であるということに気づくことさえできま

せん。学生バイトも労働者であり、正社員と同様に労働基準法等の法律によってその権利が定められています。まずは、自分がどのような権利を持っているのかを確認しておきましょう。「学生アルバイト／厚生労働省」などでweb検索すると、信頼できる情報が見つかります。

バイトでも6ヶ月以上継続して働けば、有給休暇を取得できるといった有用な情報もすぐ見つかるはずです。たとえば厚生労働省のwebサイトでは、次のように書かれています。「年次有給休暇とは、一定期間勤続した労働者に対して、心身の疲労を回復しゆとりある生活を保障するために付与される休暇のことで、『有給』で休むことができます、すなわち取得しても賃金が減額されない休暇のことです」。そして、そこにはこのような表が載っています。週アルバイト日数と継続勤務期間から付与される有給休暇の日数を表したものです。

龍大生の平均に近い、週3日、1日

6時間、週18時間のバイトをしている例を見てみましょう。計算を簡単にするために時給は1000円とします。この場合、働き始めて6ヶ月経過した時点で5日の有給休暇が自動的に発生します。大企業のコ

ンビ二も、個人経営の居酒屋も関係なく、自動的に発生します。その後、1年経過して通算1年半働いた時点で新たに6日の有給休暇が発生します。1回生春からバイトを始め、4回生で卒業するまで同じバイト先で働き続けた場合、合計で25日分（＝5日＋6日＋6日＋8日）の有給

週所定 労働日数	雇入れ日から起算した継続勤務期間						
	0.5 年	1.5 年	2.5 年	3.5 年	4.5 年	5.5 年	6.5年 以上
5日	10日	11日	12日	14日	16日	18日	20日
4日	7日	8日	9日	10日	12日	13日	15日
3日	5日	6日	6日	8日	9日	10日	11日
2日	3日	4日	4日	5日	6日	6日	7日
1日	1日	2日	2日	2日	3日	3日	3日

休暇が取れることになります。この25日分の有給休暇で得られる賃金は、9〜15万円程度です（有休取得時の賃金の計算方法はいくつかあり、それによって額は変わります。そのいずれの方法が採用されているかは就業規則に定めることになっています）。「はした金」とは言えない金額です。有給休暇という仕組みを適切に使うことで、学生生活をより充実したものにできそうです。なお、有給休暇には消滅時効があり、付与されてから2年を経過すると使えなくなるのでお気をつけ下さい。

権利を「知る」と「使いこなす」

ただ、このような有給休暇を取得している龍大生は、残念ながら7人に1人だけでした。「うちの職場は学生バイトの自分が有休を取れる空気ではない」など、当たり前の権利を知っても、それを当たり前に使いこなしていくことは容易ではないようです。

大学生活をより充実したものにできる可能性をふいにしているもったいな

さを感じます。また、当たり前の権利を使うことができないような「職場の空気」の犠牲者として自らを語る彼女らが、やがて「職場の空気」と一体化して、当たり前の権利を使おうとする誰かの権利行使を妨げる「職場の空気」になってしまっているのではないかも危惧します。

さらに、当たり前の権利が使えないという状況が、大学卒業後も続いていくこと考えるとより心配になります。「ブラック企業」という言葉が、長時間労働の果ての痛ましい「過労自殺」「過労死」、それらの報道と共に広く知られるところとなりました。学生にそうした事例を紹介した時のよくある反応は、「私ならそんな会社だったらすぐ辞める」です。しかし、本当に「すぐ辞める」ことは可能でしょうか。卒業までという期限付きで働いているバイトでさえ自らの権利を主張できず、「やりがい」「責任」の言葉で長時間労働から逃げ出すことができないのに、苦勞することの多い就職活動を経てよ

うやく働くことになった会社が「ブラック」だと気づいたところで、「正しく逃げ出す」ことなど果たして可能でしょうか。まして、新人研修で「敢えて悪条件に突っ込もう」「自己犠牲」「成長したいなら無理でもやる」といった言葉が繰り返される会社ならなおのことです。逃げ出すことは容易ではなさそうです。

大学生活をより充実したものとするために、大学卒業後もよりよく生きていけるように、大学生活を通じて、またバイト経験を通じて、当たり前の権利を知り、それを当たり前に使いこなしていく力をぜひ身につけてもらいたいと思います。

冒頭のクイズの答えは、時給964円です。週5日勤務で1ヶ月4週とありますから、1ヶ月の出勤日は20日、法定労働時間1日8時間を掛けると、1ヶ月160時間労働ということになります。ただ、時間外労働が40時間あり、10時間は深夜時間帯とあります。

通常の時間外労働は時給が1・25倍、深夜の時間外労働は時給が1・5倍になることを考慮すると、20万4850円÷(160h+30h×1・25+10h×1・5)≒時給964円となります。

この金額は2019年10月以降の大阪府の最低賃金の額とぴったり同じです。つまり、学生バイトもパートも含めて、この金額以下で人を雇って働かせてはいけないという最低限の金額です。大手の企業で、額面だけを見るとそれなりの給料が貰えそうですが、実際は最低賃金しかもらえないという事例です。

本稿で紹介した調査結果は、web上に『龍谷大学生のアルバイトと就職活動に関する調査』報告書(龍谷大学 人権問題研究委員会、2019年3月)として掲載されています。興味のある方はぜひお読み下さい。



性のあり方は人それぞれ

吉本圭佑

(よしもと・けいすけ)

政策学部准教授

■なぜ身近にいないと思われているのか

昨今LGBTという言葉を一度も聞いたことがないという人はあまりいないのではないだろうか。ドラマや映画、漫画のテーマとしてLGBTが取り上げられることが多くなり、歌手フレディ・マーキュリーの生き様を描いた映画『ボヘミアン・ラプソディ』が日本で大ヒットしたのも記憶に新しいところだ。しかし、言葉の認知度が高まれば偏見や差別が自然に解消されるかという点、そう単純なものでもない。

これまでに様々な調査が行われてきましたが、2019年に大阪市が行な

った「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」では、3・3%がLGBTに該当するという結果が出ました(1)。これは、同様の調査が行われた諸外国と比べてとりわけ高いわけでも、低いわけでもありません。だとすれば40人のクラスに1人は当事者がいる計算になるので、多くの人が実際に当事者に出会ったとしても全く不思議ではないのです。しかし、別の全国調査では、「周りに同性愛者がいない・いないと思う」と答えた人は87・8%、「周りに性別を変えた人がいない・いないと思う」と答えた人は94・2%にものぼります(2)。

では、身近にLGBTの当事者がい

でも全く不思議ではないのに、いない
と知っている人が多いのはなぜなので
しょうか。一つの要因として、メデイ
アによるステレオタイプの刷り込みが
考えられます。ゲイの文化では、女装
した男性が派手な衣装に身を包み、ス
テージ上で歌やダンスなどを行うドラ
ッグ・クイーンと呼ばれるパフォーマ
ーがいます。ドラッグ・クイーンは歯
に衣着せぬ物言い、お茶の間でも大
人気です。日本のテレビでは、このド
ラッグ・クイーンを含め、女性っぽい
仕草や喋り方をする男性のことを「オ
ネエ系」と乱暴に一括りにしているよ
うです。「オネエ系」にカテゴライズ
されている人々には、お笑い番組でも
活躍するメイクアップアーティストや
華道家、教育評論家や経済学者、性別
適合手術を受けて戸籍上女性になった
タレントや振付師など様々な職業の人
たちがいます。彼ら・彼女らがどんな
性別の人を好きになるか(性的指向)、
自分の性別をどう認識しているか(性
自認)は様々だと思いますが、そのよ

うな違いはテレビではあまり重要視さ
れず、ただ仕草や喋り方(性表現)が
女性っぽいというだけで「オネエ系」
という単純化されたカテゴリーに押し
込められているのです。実際には、性
表現から性的指向や性自認が判るとは
限りませんが、そういう先入観で見
ていると、自分の周りに当事者がいな
いと錯覚してしまうのでしょうか。

もう一つには、カミングアウトして
生きることが難しい社会であるとい
うことが挙げられます。龍谷大学で20
16年に行った無記名のオンライン・
アンケート調査では、任意に回答した
858人の学生・教職員のうち130
人がLGBTを含む性的マイノリティ
に該当することが明らかになりました
(3)。130人の当事者の中で「誰にも
カミングアウトしていない」と回答し
た人は44・6%であり、少なくとも当
事者が自分のセクシュアリティを隠し
て生きていることがわかります。また、
図1が示すように、「学生からの嘲笑
的な言動や差別的な言動がある・とき

どきある」と答えた当事者は47・7%、
「教職員からの嘲笑的な言動や差別的
言動がよくある・ときどきある」と答
えた当事者は16・1%です。同じ質問
に対する非当事者の回答は、図2に示
すようにそれぞれ18・7%と7%です
から、当事者と非当事者で感じ方に差
があることがわかります。当事者の自
由回答欄には、類似したコメントが複
数見られました。

「男子学生同士が、ネタとして『お
前ホモかよ?』などと嘲笑していた。
私はやはりそういうネタのような扱い
をされてしまうのかとおもいました」
「『あいつホモやろー、キモッ』とい
う茶化した発言があったとき、その場
のノリで一緒になって笑ってしまった。
よくないとは思いつつ曖昧に流してし
まう」

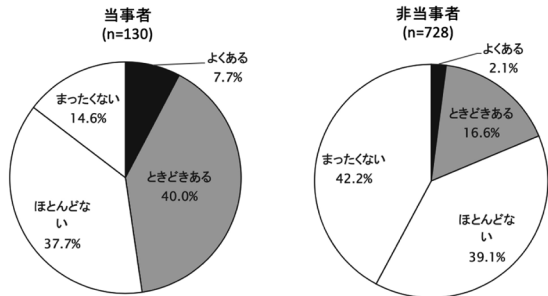
「友人とLGBTの話が話題になっ
たときに「キモイ」や「汚い」という
言葉聞いた。自分はストレート寄り
のバイ(セクシュアル)なのでそこま

でひどい程度ではなかったが、傷ついた。同時に、カムアウトを恐れた。しないでおこうと思った」

このように、同性愛が会話の中で笑いのネタとして登場したり、LGBTに対して嫌悪感を露わにする人が周りにいると、自分がターゲットにされるかもしれないという恐怖感から当事者は声を上げづらくなってしまいます。時には自分が当事者だと知られることを恐れて、一緒になって笑っていることもあるかもしれません。当事者全員がカムिंगアウト（自らのセクシュアリティをオープンにすること）して生きていきたいと思っているわけではありませんが、性的マイノリティに対するからかいや差別的言動がまかり通っている環境では自ずとカムिंगアウトする人が少なくなり、結果として自分の周りに当事者はいないという印象を持つ人が増えてしまいます。

見えないから自分の身近に当事者はいないのだと決めつけるのではなく、

図1 学生からの嘲笑的言動や差別的言動

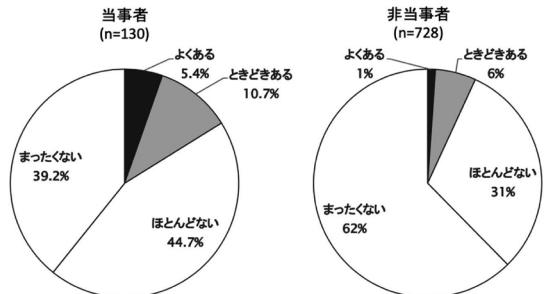


自分の発言で見えない誰かを傷つけることがないよう普段から意識をめぐらすこと、そしてもし誰かが人を傷つけるような発言をしていたら、躊躇せずに注意することが大事です。

■大学とアウトティング

もしあなたが異性の友人から告白されて、その友人と付き合う意志がない

図2 教職員からの嘲笑的言動や差別的言動



場合、どのようにに断ればよいのかわからず困ってしまうかもしれません。場合によっては、ごく親しい友人だけに相談することもあるでしょう。でも、LINEグループなど、不特定多数の人が見ているSNSで相談するということはいいのではないのでしょうか。では、もしあなたが告白してきた人が同性の友人だったらどうでしょう。異性

の友人が告白してきたときと同じように振る舞えるでしょうか。

同性のクラスメイトから告白されたことを自分の中だけにとどめておけず、LINEグループで暴露してしまった。告白した方は、告白したという事実に加え、自分が同性愛者だということを皆に知られてしまい、不安から学校に行けなくなった。先生にはクラスを替えてほしいと頼んだが聞き入れてもらえず、ハラスメント相談室では性同一性障害の医療支援をしている診療内科の受診をすすめられ、取り合ってもらえなかった。次第に心身に不調をきたすようになり、授業中にパニック発作を起こし、キャンパス内のビルから転落死してしまった。

これは2015年に一橋大学で実際に起きたことです。転落死した学生の遺族が、LINEグループで暴露した学生と大学を相手に民事訴訟を起こしたことで全国的に報じられるようになった。

りました。セクシュアリティなど、人に知られたくないと思っていることを本人の了解を得ずに勝手に第三者に暴露することをアウトティングといいます。自分の意志でセクシュアリティを打ち明ける行為であるカミングアウトと違い、アウトティングは完全なるプライバシーの侵害です。この事件を契機に、アウトティングという行為自体の重大性が議論されるようになりましたが、アウトティングについていまだ知らない人も多いようです。2020年に行った2回目の無記名オンライン・アンケート調査では、任意に回答した龍谷大学の学生・教職員520名のうち333人（回答した人の64%、学生単独では70%）が、アウトティングが何かまったく知らないと答えています。

セクシュアリティに限らず、出自や生い立ちなどについてあまり知られたくないと思っ生きている人もいます。もしそのような友人から出自や生い立ちについて打ち明けられた場合、そしてさらに告白が伴っていたとして、そ

れを勝手に第三者に言いふらすことがモラルに反することであるというのは共通認識なのではないでしょうか。しかし、これがセクシュアリティ、特に同性愛のこととなると、とたんに好奇の目に晒されたり、社会とは関係のない個人的なことと捉えられてしまうのはなぜなのでしょう。知られたくないという点では同じで、当人にとっては重大なことなのです。

■女子大学とトランス女性

2019年、お茶の水女子大学がトランス女性（過去に男性としての性別を割り当てられていたが今は女性として生きている人）の入学を次年度から受け入れると発表しました。以来、インターネット上でトランス女性に対するバッシングが吹き荒れています。驚くべきことに、本来女性差別をなくすために戦ってきたフェミニストを自称する一部の人たちが、トランス女性へのバッシングに加わっています。

バッシングの多くは、女子大にトラ

ンス女性がいることで「本物の」女性の安全性が脅かされるという趣旨のものです。トランス女性はずなせか性犯罪者予備軍のような扱いを受け、トイレや更衣室といった女性専用スペースで

「本物の」女性に危害を加えるのではないかと言う人さえいます。トランス女性は、男性の体として生まれたものの、自分は女性であるというアイデンティティを持ち、女性として社会生活を送っています。常に周りからジロジロ見られ、「本物の」女性かどうか赤の他人に判断されなければならないという状況がいかに理不尽か想像してみてください。

「本物の」女性の権利を主張する一部のフェミニストは、男性と女性というジェンダーのヒエラルキーの中で、女性が常に社会的に抑圧されてきたと主張します。しかし、女性の中にも、トランスジェンダーかそうでないかという別のヒエラルキーがあり、その中で抑圧されている人たちがいることはあまり意識されていないようです。あ

る側面では社会的弱者である人が、別の側面では社会的強者でもあるということに目を向けることが大事です。

■おわりに

2019年に行なった第2回目のオンライン・アンケート調査では、LGBTに対する理解を増進していけばそれで十分なのではないかという意見を複数いただきました。確かに、正しい知識を持つことは大切です。ただ、LGBT、性的マイノリティと一括りにされていても、性のあり方は千差万別であり、一朝一夕に多様な性のあり方を理解するのはそんなに容易なことではないと思います。また、多数派が性的マイノリティを理解するという一方通行な視点だと、多数派から理解されやすいタイプだけが取り上げられ、他が取り残されてしまうという事態にもなりかねません。

世の中には様々なセクシュアリティの人たちがいて、たとえ理解しづらかったとしても、その人たちにも同じよ

うに基本的人権があること。また、自分がされて嫌なことは人にもしなにと。まずはそういった基本的な共通認識を持つことこそが大事なのではないのでしょうか。

(1) 過去に電話ダイバーシティラボが行なった調査結果ではより高い数値が出ており、そちらが引用されることが多いですが、電通の調査はモニタ型ウェブ調査であり、ランダムに被験者を選んでいることに注意が必要です。LGBT AのAは、ここではアセクシュアル（無性愛者）を指します。「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」は無作為抽出法による調査なので、より代表性が高い調査であると言えます。

(2) 釜野さおり・石田仁・風間孝・吉仲崇・河口和也（2016）「性的マイノリティについての意識2015年全国調査報告書」科学研究費助成事業「日本におけるクィア・スタディーズの構築」研究グループ（研究代表者 広島修道大学 河口和也）編

(3) 龍谷大学人権問題研究委員会（2017）「龍谷大学におけるセクシュアルマイノリティの現状とニーズに関するアンケート報告書」あくまで任意の回答であり、龍谷大学に在籍するセクシュアルマイノリティの実人数が130人であることを示すものではありません。

■龍谷大学でできること だれでもトイレ

ジェンダーに関係なく使用できるトイレとして、学内に65箇所「だれでもトイレ」を設置しています。なお、英語表記のAll Gender Restroomは「どんなジェンダーの人も使用できるトイレ」という意味であり、LGBTの人専用という意味ではありません。
フレッシュヤーズキャンプ

入学後に一泊の「フレッシュヤーズキャンプ」が行われる学部もあります。配慮が必要な方は所属学部があるキャンパスの学生部に電話にてご相談ください。

健康診断

健康診断では胸部レントゲン写真撮影がありますが、撮影時の更衣スペースは個人ごとに分かれています。配慮が必要な方は、事前に所属学部があるキャンパスの保険管理センターまでご相談ください。

更衣室

体育の授業やクラブ、サークル活動時に利用する更衣室は個室になっています。必要に応じて教職員用の更衣室（個室）の利用など、個別に相談に応じますので、所属する学部の教務課やなんでも相談室などに事前に相談してください。

ジェンダー・セクシュアリティ相談員
大学生活におけるジェンダーやセクシュアリティに関する困り事について相談できます。龍谷大学の学生と教職員が対象です。宗教部にメールで予約をしてください。（期間限定）

SOGIカフェ

一学期に一度開催しているジェンダーやセクシュアリティをテーマにしたおしゃべり会です。参加者のジェンダーやセクシュアリティは問いません。個人情報などに関するルールを設け、安全な環境で行われます。黙って聞いているだけでも大丈夫。お申し込み不要です。開催の案内は龍谷大学ポータルサイトや宗教部のホームページでお

知らせします。

LGBTs 交流サークルにじりゅう

2016年に結成された学生の自主活動グループで、月1回茶話会を開催しています。詳しい活動内容はサークルのTwitterを参照してください。

大学生のためのLGBTQサバイバルブック

当事者を含む卒業生が様々なロールモデルを示し、当事者学生のライフプランに役立てることを目的に作成された冊子です。Vol・1「先輩たちのライフストーリーズ」は卒業生の就職活動や卒業後の人生について、Vol・2「それぞれの結婚のカタチ」はアメリカで同性結婚をした夫婦2組のインタビュー、Vol・3「みんなのキモチ」では、現役学生を含む20代の若者7人が、現在進行形の悩みや経験について書いています。Vol・2とVol・3はインターネット上でも公開しています。顕真館でも入手可能です。

共是凡夫

共是凡夫（ぐうぜばんぶ・聖徳太子『憲法十七条』第十条より）

絶対平等の理に背いて何事にも執着し、自己の価値観において善悪や賢愚を判断してしまうのが私たち人間である。それを「我かならず聖なるにあらず、彼かならず愚かなるにあらず。共に是れ凡夫（ただひと）ならくのみ。」から自己を含めて人間の平等であることを学び、「共に生きること」を実践することあらわず言葉として引用した。

（以下の文章は、人権啓発パンフレットの内容を一部修正して掲載したものです）

部落問題・同和問題とは何か？

龍谷大学経営学部准教授 妻木進吾

2016年12月、「部落差別の解消の推進に関する法律」が成立し、施行された。これは、「現在もなお部落差別が存在する」との認識のもと、「部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現すること」を目指す法律である。

部落差別は、昔に終わった話ではなさそうである。

近世の日本社会では身分秩序の最下層に「えた」と蔑称される賤民身分が置かれた。1871年、明治新政府が賤民の身分・職業を平民同様とする「解放令」を布告するが、形式的なものにとどまり、かつて賤民身分だった人々と、後に被差別部落や同和地区と呼ばれるその居住地に対する差別（部落差別）は、解放令以降も厳しく存在し、人々の暮らしはかえって苦しくなりさえた。1922年には、被差別の当事者が部落差別の撤廃を求め、全国

水平社を結成する。京都で開催された設立大会で読み上げられた、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で終わる宣言は、日本最初の人権宣言と呼ばれる。これらは、中学・高校の歴史の授業で習ったことがあるという人も多いだろう。

その後も部落差別は根強く残り、厳しい暮らしも続いた。部落出身であることを理由に安定就業から排除される。その結果、貧困から抜け出せず、子どもの学歴達成は低位なままとなる。不利が不利を呼ぶ連鎖に部落差別がドライブをかけ、他方で貧困や低学歴などの地域的集積は差別の根拠とされる。こうした差別や不平等、それらが相互に原因・結果として結びついた諸現実、部落問題・同和問題と呼ばれる。

やがて、被差別部落の劣悪な生活実態そのものが差別であるという論理により行政責任を追及する部落解放運動の高揚と、それを受けて本格化した同和对策事業によって地域の姿は変貌する。1969年の同和对策事業特別措置法以降33年間、住環境の改善などの特別対策事業が行われた結果、たとえば関西の都市部の部落では、老朽木造密集住宅から中高層の公営住宅が多くを占め

る地域へと、その風景は一変した。日本全体の経済成長もあり、低学歴や不安定就業、貧困など、部落外との格差は残りつつも概ね縮小していった。しかし、近年、日本社会全体の不安定化傾向に加え、同和対策の特別事業が2002年に終結した影響もあり、被差別部落の生活実態は再び不安定化・貧困化しつつあるとの指摘もある。なお、2010年に大阪市内のある被差別部落で実施された訪問面接調査は、こうした近年の実態を知る上で重要な調査のひとつであるが、この調査には龍谷大学の学生十数人も参加しており、彼／彼女らは一軒一軒の住宅を訪問し、住民から生活実態を聞き取っている。

では、差別についてはどうだろうか。部落解放運動や同和行政の粘り強い取り組みもあり、部落差別はかつてに比べればだいぶマシになった。しかし、冒頭の法が指摘しているように、なくなっただけではない。事件化されることは少ないとはいえ、部落出身であることを理由として結婚に反対される結婚差別はそれほど珍しいものではない。2011年に発覚した、身元調査を主な目的として東京の法務事務所が全国3万件の戸籍謄本等を不正取得した事件は、部落出身者を忌避する人々が存在していればこそその事件である。また、大阪府民対象の意識調査(2010年)では、「結婚相手が同和地区出身者かどうかが気になる」割合が2割に達することが明らかにされている。2016年には、インターネット上に同和地区の地名リストが公開される問題なども起こった。被差別部落の出身というアイデンティティが、その人を構成するアイデンティティの一つとして当たり前に受け止められる社会を作り上げていくという課題は、まだ私たちに残されている。

「女子力」って何？

龍谷大学経済学部講師 金子裕一郎

「○○ちゃん、女子力高いね」。

皆さんもよく使ったり、聞いたりしませんか。でも、「女子力」ってナンでしょう。皆さんは「女子力」という言葉にどのようなイメージを持っていますか。「女子力高いね」といわれて、あなたは嬉しいですか、嬉しくないですか。

あるアンケートでは、次のような意見が紹介されています。「いつからか飲み会でのサラダを取り分けると、女子力が高いといわれるようになった。……日本には、『女性は気配り、料理などの家事ができたほうがいい女といえる』という固定観念がある」(『朝日新聞』2017年1月22日朝刊)。どちらかというと、ネガティブなイメージです。でも、「今日の服カワイイね、女子力高い!」といわれて、嬉しい人もいるはず。そのような人にとっては、それをダメといわれても困ってしまいますね。

菊池「2016」の整理を借りてみましょう。「2000年代以降になると、……『フェミニズムは終わった』という言説が支配的になっていることや反フェミニスト的感情が一般に、とくに若い女性に広がり、『女性たちは新しい女性性を身につける

よう社会的に要請されるようになった。「それは、身体的資産として女性性を感じ、性的客体から性的主体へと変化すること……などを内容としている。そのような新しい女性性を取り巻くように、性的差異を再主張する言説が流行している」。続いて米澤 [2014:191] を引き、「装いの力としての『女子力』は、基本的に男性に向けられているものではない。むしろ、『女子』として生きていくための原動力となっているものである。……妻や母といった社会的役割、良妻賢母規範を軽やかに脱ぎ捨てるフアッション誌の『女子力』はもっと評価されるべきであろう」。

このように、同じ言葉でも人によって受け取り方や評価は異なります。他人への気遣いや料理が得意なことを人として評価してもらえないのも違う気がしますね。モノならば、誰かにプレゼントしたり、誰かのモノを盗ったりすることの善悪は比較的わかりやすいですね。でも、ある人への評価や判断は、こちらが良かれと思っていったこと、したことが、相手を傷つけてしまったり、貶めてしまったりします。それがその人にとって好ましくない、変更の効かない関係で定型化されてしまうと、偏見や差別につながってしまいます。時々リセットして、その人自身を見直す機会をもちたいものです。

参考文献・菊池 夏野 [2016] 「女子力」とポストフェミニズム：大学生の「女子力」使用実感アンケート調査から」名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』25号、pp.19-48。
米澤 泉 [2014] 『女子』の誕生」勁草書房

「見えない『いいない』ではない。 セクシユアルマイノリティ

龍谷大学政策学部准教授 吉本圭佑

ここ数年、日本でもLGBTの4文字を見る機会が増えたように思う。LGBTとは、性のあり方が多数派とは異なるセクシユアルマイノリティの代表例で、Lはレズビアン (Lesbian、女性同性愛者)、Gはゲイ (Gay、男性同性愛者)、Bはバイセクシユアル (Bisexual、両性愛者)、Tはトランスジェンダー (Transgender、身体の性と心の性が一致していない人) の略である。LGBT以外にも、男性・女性という枠に当てはまらないXジェンダーや、性のあり方を模索している状態にあるクエスチョニングなど、多様なセクシユアルマイノリティが存在している。欧米では、2000年のシドニーオリンピックと2004年のアテネオリンピックで金メダルをとった競泳選手のイアン・ソープや歌手のレディー・ガガ、アップル社の最高経営責任者 (CEO) のティム・クックス、ルクセンブルクのグザヴィエ・ベッテル首相など、自らがセクシユアルマイノリティであることを公にして (カミングアウトして) 広く社会に受け入れられている。

「最近LGBTが増えたよね」という声をよく聞くが、果たして近年になって人類に突然変異が起こったのだろうか。いや、同性愛は古代ギリシア時代から存在していたことが記録に残っている。長い不遇の時代を経て、1970年代にアメリカで盛んになった社会運動を契機に、近年では同性結婚を認める国も増えてき

た。LGBTは海外でも日本でもずっと存在していたのであって、特に最近になって数が増えたというわけではない。ただ、差別や偏見を恐れて本当の自分を隠して生きていた人々が、カミングアウトしてありのままに生きる選択をすることが増えたということなのだ。

日本では、2015年に電通ダイバーシティラボが行なった調査で、人口の7・6%（およそ13人に1人）がセクシュアルマイノリティに該当するという結果が出ている。だとすると、左利きやAB型の人口とはほぼ同じ割合であり、クラスの中にいたとしても全く不思議ではない。テレビで見えるような、「オネエ系」とは限らない。ただ、あなたやまわりの人に言わないだけのこと。「お前ホモかよ、キモっ」といった笑いのネタがまかり通っているから、からかわれ、言いふらされることを恐れて、まわりに合わせて一緒に笑っているのかもしれない。

2016年に龍谷大学人権問題研究委員会が行なった「龍谷大学におけるセクシュアルマイノリティの現状とニーズに関するアンケート調査」では、任意に回答した858人の学生・教職員のうち130人がセクシュアルマイノリティに該当し自認していることが明らかにになった。また、日常的にセクシュアリティに関する差別的・嘲笑的な言動があり、傷ついている人々がいることも分かった。このアンケート結果を受け、性別に関係なく使える「だれでもトイレ」の設置や、「性のあり方の多様性に関する基本指針」の策定など、本学は様々な取り組みを行ってきた。

多数派と違うということは、おかしいことではない。性のことだからといって、笑いのネタにしているということでもない。大

事なのは、自分の当たり前がみんなの当たり前だと決めつけずに、思いやりの気持ちを持つこと。覚えておいてほしい、「見えない」「いない」ではないことを。

【参考URL】 龍谷大学LGBTs交流サークル「にじりゅう」
Twitter: <https://twitter.com/nijiryukoku>

多様な性のあり方に関する本学の対応について: http://www.ryukoku.ac.jp/shukyo/committee/sexual_minority.html

外国人も社会の一員

龍谷大学国際学部クローバル
スタディーズ学科教授

チャブル ジュリアン

最近、街を歩くと「Foreigners Welcome」と書かれた看板をよく目にする。それもそのはず。来日する外国人観光客の数がこの数年で急速に上昇しているからである。一昨年（2018年）一年間だけでも2800万人もの外国人が観光目的で来日した。2020年までに4000万人に達するのではないかと政府観光局は予想している。

しかし、あえて「Foreigners Welcome」という看板を掲げる必要があるというのも不思議なことである。逆に、「No foreigners」とか「外国人お断り」などの看板が存在するのも事実である。拒否している店側の言い分としては「日本語で意思疎通が取れない」とか、「マナーが悪い」とか、「他のお客さんからクレームが絶えない」といった理由があるようだが、だからと言って差別しているという訳ではないはずである。グローバル化が進む中、先進国

として、これから「日本人ではない」人々などのように付き合うか、どのように社会を共に築き上げるかが益々重要な課題である。

日本には大きく分けると2種類の外国人がいる。一方はオールドカマーと呼ばれる第二次世界大戦以前に日本に住んでいた、主に朝鮮半島出身者とその子孫である。もう一方は1980年以降に渡日したニューカマー（主にブラジル、中国、ペルー、ベトナムにルーツを持つ人たち）である。現在、日本には日本を生活拠点にしている外国人が280万人いる。日本人と結婚して来日した人や、技術や芸術などのスキルを「売るため」に、または求めてやってくるなど、当初は様々な理由で来日したが、今は「日本が故郷だ」と思っている外国籍の定住者が日本の総人口の約2%を占めている。外国人による犯罪が増えているが、それはごく一部に過ぎない。ほとんどの外国人は一生懸命勉強をして、仕事をし、家族を養って、税金を納めている。それにもかかわらず未だに「日本人」と同等な条件で生活ができない。

法務省による在日外国人を対象にした調査によると、3人に1人は差別的な発言を受け、4人に1人が就職活動で差別を受けた経験があると回答した。例えば、国籍が違うという理由で昇任を断られた人が17%いたり、40%が住宅を巡る差別を受けたという結果だった。さらに、公立学校に通う外国籍児童の日本語の補助も足りていない。何よりも国政はもちろん、地方自治体レベルでさえ選挙権が与えられていないということも不平等な扱いの証である。

大学では社会の仕組み、経済や経営、法律等々たくさん専門的なことを学べる機会がある。しかし、社会をより良くしようと思うならば、社会の「全」構成員が平等に「共に生きること」のノウハウを考えて、是非実現に向けて行動してもらいたい。

「社会的平等」を否定するヘイト・スピーチ

龍谷大学法学部教授
金 尚 均

民族、出自、性別等の属性の理由に対して向けられる侮辱的表現、つまりヘイト・スピーチが、昨今、重大な社会問題になっている。ヘイト・スピーチにはどのような害悪があるのだろうか。単に不快なのであろうか。いやそうではない。不平等処遇の犠牲者たる人々の社会的地位の格下げという害悪とこれによる自尊の侵害を見て取るべきである。このような意味を込めて、このようなヘイト・スピーチは社会的な平等関係（の構築）を阻害し、集団に属する人々の社会参加をする機会を阻害する側面をもっている。なぜなら、ヘイト・スピーチは、人を人として見ない、人的人格差をつけること、つまり「二級市民」、「人間以下」として蔑むことに本質があるからである。

憲法14条は、法の下の平等を保障しているが、これは、法適用の平等性・公正性、権利・義務の公正な分配、法的保護の平等性、生きる権利の平等な保障をその内容としていえるべきである。特に、最後の生きる権利の平等の保障とは、法が保護すべき根本的権利である生存権保護の平等を意味するが、属性に対する侮辱的表現は、集団に属する人々に対して平等に法適用、権利保

障として権利の行使を否定している。「二級市民」「人間以下」とは、「人間じゃない」ということであり、対等かつ平等な人として法の下に平等に生きることを否定している。

社会の構成員である人々は、自己の歴史の一つとして出自、性向、民族などの属性を有しており、これに基づいて人格形成をし、自らのアイデンティティを形成・確保する。一定の属性を有する人々一般にむけられたヘイト・スピーチでは、表層的には、人格権の否定（自分が人間としての自分であることを否定される）そして生存権の否定（対等な人間として生きる権利・法の下において平等であることを否定される）が問題になる。しかし、その実態としては、特定の属性をもつ人々が生きながらして人格権・生存権を否定されながら生き続けるという意味において、その侵害は継続している状態にある。

ここでは、不平等、つまり、個人を特定できないということではなく、公共の場において一定の属性に向けて侮辱的発言をすることで「民主主義社会における根本基盤である対等で平等に生きること」（『社会的平等』）を否定している。

子どもに対する厳しいしつけや指導

龍谷大学文学部哲学科教育学専攻教授 林 美輝

街中で、子どもが保護者らしき人に大声で叱りつけられている様子を見て心が痛む経験をしたことのある人も多いのではないのでしょうか。私は仕事柄、訪れる先の学校やその他の教育現場でも同じような経験をする場合があります。時々とはいえ、先生も大

声でなく、丁寧な言葉遣いではありますが、子どもが聞けば従わざるを得なくなるような口調で話している様子を見て、見ているこちら側も辛くなることがあります。家庭よりもさらに時間的な制限がある中で教育活動ですし、とりわけ緊急時にはそうせざるを得ない場合があるのだと思います。

体罰を伴うものではなくても、口頭等によるこういった厳しいしつけや指導は、よほどの暴言やハラスメントが伴うものでなければ問題視されることは少ないと思います。しかし、こういう指導やしつけは、『教育』というものを『自律』した人間の育成だと理解した場合には、体罰と変わらないとも言える側面があります。体罰が、相手の肉体に暴力を与えることで、『教育』する側の思い通りにするのと同様に、体罰を伴わない口頭等による厳しいしつけや指導も、相手の心に心的ストレスを与えることで、『教育』する側の思い通りにしているだけなのであれば、その点においては体罰と変わらないと言うこともできます。本人はもちろんのこと傍らにいる他の子どもにも心の傷を与えることがあるでしょう。

しかもそういったしつけや指導には、子どもの『理性的な納得を伴っていない場合も多いのではないのでしょうか。真剣だからこそ熱が入り、相手の『心』に響く、という文化のようなものを少なくない割合の人たちが支持していることもあると思います。時には子どもの心に『感動』も生じて、行動が変わることもあるでしょう（ある種の体罰も感動的な美談で語られることがあります）。しかし、それだけならば、変化した子どもたちの行動が『主体的』なものであると言えても、その子の『自律』した判断によるものと

も言えないのではないでしょう。

街中で子どもを大声で叱っていた保護者らしき人も、子どもが従わざるを得ない口調で話している先生も、そんなことは分かっているのかも知れません。もしも子どもとじっくり向かい合って話し合う時間がないから、そういうしつけや指導をされるのだとすれば、どうすれば時間の余裕ができるのかということを考えていく必要があると思いますし、また、他にも何か環境を改善することでこういった問題を克服することができのかも知れません。そのことはきっと、体罰もなく、子どもの権利を擁護するような環境づくりにもつながることでしょう。

介護が必要でもその人らしく生活する権利を

龍谷大学社会学部准教授 高松智画

厚生労働省の「平成30年簡易生命表」によると、わが国の「男の平均寿命は81・25年、女の平均寿命は87・32年」で、世界でもトップクラスの長寿国です。近年は、健康寿命（日常生活に制限のない期間）をできるだけ伸ばして、平均寿命との差を縮めることが重視されており、食事や運動などについて、日頃から健康な生活習慣作りに取り組むことが大切であるとされています。しかし、とくに高齢になると、病気やケガだけでなく、体の老化によって、健康を維持することがより困難になっていきます。介護保険制度は、食事や入浴、排泄など身のまわりのサポートが必要な人が、適切なサービスを受けることができるよう社会全

体で支え合うことを目的としています。が、介護保険サービスを受けるためには、どの程度の介護が必要なのかの認定を受けることになっています。2017年度末の厚生労働省の報告では、介護保険加入者のうち「要介護1」「要介護5」の認定を受けた高齢者の占める割合は13・1%（455万6千人）です。日常生活全般に亘って介護を必要とする「寝たきり」、あるいはそれに近い状態の「要介護4」「要介護5」と認定された人は、そのうち29・7%（135万3千人）になっています。

私は、そうした介護を必要とする高齢者のための介護保険施設の一つである、特別養護老人ホームを月に1〜2回訪問しています。施設を運営する社会福祉法人の苦情解決のための第三者委員として、入所者から、日頃困っていることはないか、要望はないかを聞き取る活動をしています。会話の中で、「お世話になっているのでこれ以上望むことはない」という言葉をよく耳にしますが、本当に今の生活に満足しているのか、遠慮しているのではないかと思うのです。また、「これ以上長生きしてもしかねない」といった言葉を聞くこともあります。人の手を借りなければ生きていけないことのつらさ、苦しみを思うと返す言葉がみつからないこともあります。

先に示したように、健康で長生きすることを願ってもそうできない現実があります。健康寿命の延伸ばかりに目を向けていると、介護を要する高齢者が生きづらさを感じていることに気づけなくなるのではないのでしょうか。介護が必要であつてもなくても、誰にでもその人らしく生きる権利があり、それが尊重されなければなりません。

障がいのある学生の支援にかかわる言葉の別の語り方に向けて

障がい学生支援室長 林 美輝

龍谷大学では、多くの他大学に先駆けて、1967年に点字による入学試験が実施されました。後に、全盲者としては、日本で初めて高等学校の教師となった楠敏雄さんという方が、この入学試験で合格し、本学の文学部に入学されました。

試験の合格後に楠さんは大学に呼び出されて、おおよそ次のような内容のことを言われたそうです。

「本学ではあなたを他の学生と平等に扱います。『特別扱い』はしません」と。これは、他の学生には、授業を受けるための支援がないように、楠さんにも何の支援もすることはありません、ということの意味しました。「平等」をこのように形式的な意味で語ることは、今日ならば「合理的配慮の否定」だと思えるのですが、当時から先進的な取り組みをしていた本学でさえこのような状況でした。

大学からの公式の授業支援は受けられなかったのですが、楠さんは、周囲の学生と「盲人問題研究会」というサークルを作り、学生に点字を教えて、教科書の点字訳作成などの支援を受け、他の学生と共に育ちながら大学を卒業されました。

それから約半世紀にわたり、本学には障がいのある学生支援にかかわる様々な積み重ねがあり、楠さんの他にも日本では全盲の方で初めて弁護士となられる竹下義樹さんをはじめ多くの障がいのある学生への支援が続いてきました。障がい学生支援室もそ

の延長線上に設置されたものだと言うこともできるでしょう。

他の大学に先駆けて、これらの支援が可能となったのは、建学の精神に根ざした龍谷大学の文化を、学生や教職員一人ひとりが、具体的な形で実現するための日々の積み重ねがあったからだと思います。そして、同時に、それらの支援が続くことを後押しするものとしては、一人ひとりの「いのち」を大切にするために、「障害」にかかわる、別の語り方をしていく世界的な動向もあったと言えるでしょう。

まずもって「障害」という言葉については、個人の中にあるというよりは、「社会的障壁」として語られるようになってきました。ソフト面・ハード面ともに全ての人が生活しやすい環境が整えば、「障害」がなくなるという語り方です（「障害の社会モデル」等と言われる理解に基づく語り方です）。

また、「自立」という言葉も、自分一人の力で何らかのことを実現できるといった意味ではなく、人によっては、依存先を増やすことで何らかのことを実現すること、あるいは「助けてください」と言えることなども語られることもあります。

今日では、かつて楠さんが大学に求めたような支援は、「特別扱い」ではなく、「公正」な観点からの「合理的配慮」として語られるようになってきています。

そして、「障がい学生支援」といったかたちで用いられる「支援」という言葉も、健康者が障がい者を支えて援助するといった一方方向の意味ではなく、何か別の語り方、例えば、全ての人がお互いに成長し合えるように協力し合うことにかかわる意味でも語られるような日が来ることを願ってやみません。

人権に関する基本方針

龍谷大学は、建学の精神である浄土真宗の精神を具現化する取り組みのもと、平和を希求し、基本的人権と生命の尊厳を守り、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢、性別、セクシュアリティ、障がいの有無などにかかわらず、本学に関わるすべての人が差別やハラスメントなどの人権侵害を受けることなく学び、働き、関わり合えることを保障します。

龍谷大学は、基本的人権を尊重した環境の整備と、社会的に不利な立場にある人への支援・連帯を推進するため、人権理論の研究、社会的な変化や新たな人権問題に関し、情報収集に努め、本学における人権保障にかかる諸施策の検証と改善、教職員への研修、学生への教育・啓発を継続的に実施します。また、人権保障のための体制の整備に努め、取り組みを公表します。

龍谷大学のすべての構成員は、人権侵害が意図的な行為だけでなく無知や無関心、想像力の欠如によって生じることを常に意識するよう努めます。そして、自ら差別に加担し他者を傷つけている可能性があることの自覚をもち、人権問題に真摯に取り組む姿勢を持つとともに、一人ひとりの多様性と価値を尊重し、偏見や固定観念、差別意識の克服に向けて、主体的に取り組めます。

龍谷大学および龍谷大学のすべての構成員は、教育、研究など、

あらゆる機会において人権保障にかかる諸課題を明らかにし、諸活動や成果の発信を通して、人権を尊重する文化と差別のない社会づくりに貢献します。

性のあり方の多様性に関する基本指針

性的指向や性自認など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題です。

龍谷大学は、「人権に関する基本方針」のもと、本学構成員の一人ひとりが、性的指向および性自認などに関する悩みや生きづらさを抱える人がいることを常に理解し、合理的な配慮を可能な限り提供するため、次のとおり基本指針を策定します。

1. 教育、学修、研究、就業等の環境において、性のあり方に関する偏見や差別が生じることがないよう不断の学習と啓発に努めます。
2. 具体的な対応にあたっては、悩みや生きづらさを抱える本人の意思を尊重して合意形成を目指します。
3. トイレや更衣室等の利用にあたり、戸籍上の性別等にかかわらず性自認にしたがって自らが選択できるよう、環境整備と理解の醸成を図ります。
4. 性のあり方に関する個人情報保護を徹底します。



「白色白光」

「白色白光」びやくしやくくわくという言葉は『仏説阿弥

陀經』に「池中蓮華 大如車輪 青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光 微妙香潔」とあり、本紙の表題にふさわしいということで命名しました。

これを口語訳しますと、次のようになります。

池の中に咲く蓮の花は、車輪の如く大きい。例えば青い色の花は、青く光り輝いており、黄色い花は黄色く光っている。赤い色の花は、赤く輝いて咲き匂い、白い色の花は、真つ白に輝いて咲いている。その各々の花は、微妙であり、妙なる色合いであり、その香りたるや、芳しく清らかである。

世の中には、青い色の花として輝く人もあるでしょうし、あるいは白い色で輝く人もあるでしょう。このように、私たち一人一人は、それぞれの母の胎内から生まれ、尊い生命を恵まれた、かけがえない存在なのです。

「白色白光」には、お互いがお互いを尊重しあいながら、自分だけにしか出せない美しい輝きでもって咲き匂って欲しいという願いが込められています。

「白色白光」第22号

2020年3月1日発行

編集 龍谷大学人権問題研究委員会

発行 龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

☎075(642)1111(代)

